



信徒を整えるための季刊

聖書教育

季刊 聖書教育 秋号 NO47

2022年11月27日

こうして、キリストご自身が、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を伝道者、ある人を牧師また教師として、お立てになったのです。それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためです。 エペソ4章11～12節

巻頭言 【 事を行わせてくださる神 】

聖書教育センター 慶徳正好 P 1～3

特集記事 山手外人墓地散策 P 3～6
～聖書塾第Ⅶ期 外人墓地をたずねて～

編集後記 P 6

巻頭言 『 事を行わせてくださる神 』

聖書教育センター 教育主事 慶徳正好

ピリピ人への手紙2章12、13節

12 こういうわけですから、愛する者たち、あなたがたがいつも従順であったように、私がともにいるときだけでなく、私がいらない今はなおさら従順になり、恐れおののいて自分の救いを達成するよう努めなさい。

13 神はみこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださる方です。

はじめに

与えられたピリピ人への手紙2章12、13節の短い聖書箇所を目をとめて何度も読み返した時、ふと素朴な疑問が浮かんできました。それは、パウロがピリピの教会のクリスチャンに「自分の救いを達成するよう努めなさい」と勧めたことばです。疑問点は2つありました。

(1)なぜ、パウロはあたかも人間のわざによって救いが達成されるかのような語りかけをしたのでしょうか。

(2)では、救いの達成とはどうしたら得られるとパウロは考えたのでしょうか。

与えられたこの2点について、聖書はどう答えているのか注目していきたいと思います。

「救いを達成するよう努めなさい」

「達成する」とは、どういう意味でしょうか。イエス・キリストが与えてくださった「救い」とは私たちに土台を据えるだけで、あとは私たちが自らの力でその土台の上に何か築き上げ、完成させていく必要があるということなのでしょう。

決してそうではありません。私たちクリスチャンはだれもが、「神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いを通して、価なしに義と認められ」（ローマ3：24）たのです。こうパウロが断言したように、「救い」は神の恵み以外の何ものでもありません。神が一方的に私たちに与えてくださった～完全なるギフト～なのです。イエス・キリストの「救い」とは、そこに何も付け加える必要のない完全なもので、ただ信じるだけで与えられるものです。自分で自分を救い出すことのできない私たちは、イエス・キリストの救いを信じる、その信仰によって義とされたのです。「人の子」イエス・キリストは、私たちに「仕えられるためではなく、仕えるために、また多くの人のための贖いの代価として、

自分のいのちを与えるために来たのです」(マルコ10:45)。キリストは、すべての人の贖いの代価として、ご自分を与えてくださいました(1テモテ2:6)。ここに明らかにされていることは、「救い」は人間のわざによって達成されるものではないということです。

ですから「救いを達成する」とは、神の始めてくださった救いを人間の力で完成させるということではなく、神ご自身が私たちを救ってくださった目的を全うしていくということです。

イギリス国教会のある主教は、救いの三つの姿について～過去・現在・未来に関連して～次のように説き明かしたそうです。クリスチャンはすべて、信仰をもって救われました(過去)。救われた者は日々救われて行きます(現在)。そして、救われた者は、ついに救いの完成を見るのです(未来)。これは、言い方を変えると、【義認・聖化・栄化】とも言えるでしょう。パウロがこのピリピ書で勧めたのは、ピリピ教会の愛するクリスチャたちの霊的成長を願う「聖化の道」で、救われた者は聖くされなければならない、救われた者に相応しく信仰が成長するよう語りかけているのです。神が求めているのは、私たちの生活を通して、私たちの人生を通して果たすこと、それこそが「救いの達成の道」なのです。

「従順になり、恐れおののいて・・・」

12節の短いことばの中に「従順」が2回出てきます。では、「従順」にはどのような意味があるのでしょうか。一般的(辞書的意味)に、従順とは「性質、態度などがすなおで、人に逆らわないこと。おとなしくて人の言うことをよく聞くこと。また、そのようなあり様。」と説明されています。新キリスト教辞典(いのちのことば社)では、創世記のアダムとエバ(創世記2:16、17)に関連して、次のように説明しています。「～しかし、善悪の知識の木からは取って食べてはならない。その木から食べる時、あなたは必ず死ぬ。」この神の御心に二人は従う

ことができず、人類に死が入り込んできました。そこで、神はイエス・キリストの従順によって人類を救いに導かれたのだと、説明しています。

こう考えてきますと、「従順」とはイエス・キリストの「へりくだり」にその真の姿を見ることができるのかも知れません。「すなわち、ちょうど一人の人の不従順によって多くの人が罪人とされたのと同様に、一人の従順によって多くの人が義人とされ」(ローマ5:19)たのです。キリストは父なる神の御心に従順に従われました。「キリストは、神の御姿であられるのに、神としてのあり方を捨てられないとは考えず、ご自分を空しくして、しもべの姿をとり、人間と同じようになられました。人としての姿をもって現れ、自らを低くして、死にまで、それも十字架の死にまで従われました」(ピリピ2:6-8)。

ここに、「従順」の最高の模範があります。ですから、神への従順こそが創造された者(被造物)としての人間のあるべき姿なのです。異邦人伝道に携わった使徒パウロは、自ら宣教者としての自分を指して「この方によって、私たちは恵みと使徒の務めを受けました。御名のために、すべての異邦人の中に信仰の従順をもたらすため」(ローマ1:5)に派遣されていく使命を明らかにしています。御子であられるキリスト御自身が「お受けになった様々な苦しみによって従順を学び、完全な者とされ、ご自分に従うすべての人にとって永遠の救いの源」(ヘブル5:8、9)となられたのでした。旧約聖書であるサムエルも言ったように「主は、全焼のささげ物やいけにえを、主の御声に聞き従うことほどに喜ばれるだろうか。見よ。聞き従うことはいけにえにまさり、耳を傾けることは、雄羊の脂肪にまさる」(1サムエル15:22)。

パウロが好んで用いる、謙遜を示す慣用句に「恐れおののく」があります。ピリピ書以外にも、Iコリント2:3、IIコリント7:15、エペソ6:5、コロサイ3:22などで用いられています。もちろん、ここでの「恐れ」とは

があります。(21・22・23 地区に埋葬、非公開)
また、井土ヶ谷事件のフランス人被害者、H. カミュは、フランス陸軍少尉であったが乗馬を楽しみながら居留地から遠い井土ヶ谷で、隠れていた浪士2人によって殺害されました。結局犯人は捕まらず幕府は賠償金を払ったり、フランス皇帝への謝罪をしたり、事件解決に苦労しました。(16 地区、非公開)

さらに、墓地には「お雇い外国人たち」の墓もたくさんあります。文明開化のシンボル《陸蒸気》を走らせたエドモンド・モレルの墓(18 地区、公開)は、レールや切符の形をした特徴的な墓となっています。明治政府はイギリス人のモレルらを招きわが国最初の鉄道建設を進めました。1872(明治5)年苦勞の末、鉄道は完成しましたがモレル自身は前年に亡くなり、新橋・横浜間の列車が走る姿を見ることができませんでした。この他にも、ポンチ漫画の元祖である、C. ワーグマン(16 地区、非公開)や日米の桜の懸け橋となった、E. R. シドモア(10 地区、公開)の墓もあります。



《左の写真は墓地外から生麦事件死傷者の墓を撮影する》

《下の写真は近寄って見ることができるモレルの墓、墓地の四隅がレール型をしている》



Q4: では、キリスト教関係者の墓はどこにありますか?

A4: 公開している4地区に限っても多くの宣教師たちの墓があります。第①に【プロテスタント1号教会設立者 J. H. バラ宣教師とマーガレット夫人】の墓、第②に【プロテスタント2号教会設立者 N. ブラウンとシャーロッテ夫人】の墓、第③に【横浜共立学園創設者3人の婦人宣教師たち】の墓、第④に【青山学院創設者たち】の墓があります。以下、順にその業績と人物像について触れていきます。

① **バラ宣教師とマーガレット夫人**・・・祈りと熱誠の牧会者バラが来日した時は29歳、夫人は20歳という若さでした。生麦事件やハリス総領事通訳ヒュースケン暗殺事件や外国公館襲撃など不穏な動きの中、バラ夫妻は横浜居留地での日曜礼拝説教(主として外国人の為の)や祈祷会を主宰しながら、鍼灸師矢野隆山から日本語の習得や文化理解に努めました。病気がちであった矢野が自宅にてへボン立会いの下1865(慶応元年)、バラから洗礼を受けた折、夫人の手記には「私の生涯の中で最も幸せな出来事だった」と記されました。(プロテスタント最初の受洗者) マーガレット夫人にはつぎのような逸話があります。1866(慶応2)年へボン夫妻の留守中の事、へボン塾生(後の総理大臣・高橋是清や外務大臣・林董ら)を指導中、慶応の大火で火の手が迫り塾生が危険を感じて逃げようとするも、それを一蹴し授業を続けたと言います。隣家に火の手が迫り類焼ギリギリまで指導の手を緩めなかったと、高橋の記録に明記されています。1872(明治5)年3月、未だ「切支丹高札」撤去前にも関わらず、日本基督公会(現横浜海岸教会)を11名の信徒と共に設立しました。マーガレットは三男二女を育て1909(明治42)年3月69歳で召天し、外人墓地4地区に埋葬されました。



画像は「若き日のバラ夫妻」



画像はバラ夫人
マーガレットの
墓(墓地4 地区)

② N. ブラウンとシャーロット夫人・・・宣教の老戦士ブラウンが来日した時は65歳、再婚の夫人シャーロットは34歳、J. ゴーブルは3度目の来日で46歳、夫人は37歳でした。4人のアメリカ・バプテスト連合宣教師らは、「切支丹高札」が1873年2月24日撤去の直後、第一聖日(3月2日)山手居留地203番に「横浜第一浸礼教会」を設立しました。3月にはゴーブル夫妻は山手居留地75番Aに、ブラウン夫妻は75番Bにそれぞれ移転し、ここが日本バプテスト発祥の地とされています。初代牧師となったブラウンは「もし私があと10年生きることができるのであれば、日本の人たちに新約聖書を翻訳し、また横浜に50名の教会を見ることができれば、宣教は決して空しくはない」という言葉を残しています。ブラウンは既に高齢であったにも関わらず、精力的に聖書翻訳や讃美歌の出版に尽くしました。シャーロット夫人は町の少女たちを教え始め、クララ・サンズがその塾を引継ぎ発展させました。1886年、夫ブラウンが召天後、夫人が再び少女たちを預かり女学校の設立を目指しました。1890年クララ・カンヴァースが後の「捜真女学校」として本格的な女子学校となりました。



画像はブラウン
夫妻の墓
(外人墓地4 地区)

画像(下)は
N. ブラウン



③ 横浜共立学園創設者3人の宣教師たち・・・アメリカ婦人一致外国伝道協会(略称:WUMS)は、1871(明治4)年、3人の宣教師を日本に送りました。M.P. プライン(共立初代総理、51歳で来日)、L.H. ピアソン(借成伝道女学校校長、39歳で来日)、J.N. クロスビー(共立2代目総理、38歳で来日)は、山手居留地48番に「アメリカン・ミッション・ホーム」を創設しました。それは、開港によって多くの孤児や混血児などを支援する施設の必要があったからでした。1872年山手居留地212番(現在、横浜共立学園の位置)に移転してからは、女子教育専門の学校として方針を改め「横浜共立学園」として今に至っています。



画像上:「ピアソンと墓(外人墓地4 地区)

画像下:「クロスビーと墓(外人墓地4 地区)

④ メソジスト派青山学院創設者たち・・・1875(明治8)年、メソジスト派監督教会(美会教会)のR.S. マクレーとヘンリエッタ夫人、I.H. コレルとジェニー夫人が来日しました。中国伝道から日本伝道へと転進を命じられたマクレーは既に50歳でしたが、驚くほどの早さで日本語を習得し、日本の生活に溶け込む努力をしました。そして、山手居留地222番の土地をバプテスト派のゴーブル

から買い受けて「天安堂」を建て75年6月に日本におけるメソジスト監督教会最初の礼拝を行いました。同年10月には隣地221番に日本人伝道者養成のため「美会神学校」を建て幾多の変遷を経て、今日の青山学院に繋がっています。日本人は中々この教会に来なかったようですが、次のような話が伝えられています。ある儒学者が夏の暑い夜、山手を散歩中、西洋人の説教を聞き「国を亡ぼす邪教を公然と布教するとは、けしからん。懲らしめてやろう」と、教会に入ったそうです。内容は分からなかったが「天帝・真理・至誠」などが説かれていて、儒教と関係あるかと感じ度々マクレイ宅を訪れ、後に回心し伝道者となったそうです。29年にわたり連れ添ったヘンリエッタ夫人は、女性伝道者養成のためにも尽力し、最期は教会の礼拝で奏楽中、56歳で天に召されたとされています。外人墓地4地区には、マクレイ夫人と共に女性伝道者養成に努めたS.B. ヒギンスや港内事故で若くして亡くなったM.E. シモンズらの墓もあります。

右画像はマクレイ夫妻
下は青山学院創設者らの墓と記念碑



Q5：最後に、歴史散策に出かけたいのですが、ルートなどを紹介してくれませんか？

A5：まず、【横浜山手外人墓地】交通：横浜市営バス11系統「港の見える丘公園」バス停より徒歩1分

みなとみらい線 元町中華街駅6番出口よりエスカレーター、アメリカ公園経由で徒歩3分ほど。

次に【日本バプテスト発祥の地】は、住所：横浜市中区山手町75番地(現存はしていないが、画像のように中央に「横浜第一浸礼教会」右上に「横浜バプテスト神学校」が建てられていました。交通：元町中華街駅6番出口より元町公園経由で徒歩10分ほど。



〇〇〇〇 編集後記 〇〇〇〇

◆聖書教育 秋号 N047 は、特集記事として、聖書教育第Ⅶ期 山手外人墓地散策を中心に掲載しました。聖書塾受講の17名の皆様と散策した「資料」を希望される方は、教会まで連絡願います。

◆聖書教育センター【第Ⅶ期 聖書塾】は『近代キリスト教史を考える～宣教師、人物伝から紐解く～』（11月19日、23日、26日の3回講座）（オンラインと会場参加）を開催しました。今回も諸教会から、20名ほどの参加者があり、共に歴史に学ぶ機会を持つことができました。感謝いたします。

◆第Ⅷ期 聖書塾での学びについて、現在計画中ですが、2023年2月頃を検討中です。外部講師をお招きする予定です。

季刊 聖書教育 秋号 N047

発行所 聖書教育センター

牧師 中上 勝雄 発行日 2022年11月27日

郵便振替 00270-9-60432

〒221-0065 横浜市神奈川区白楽110

TEL 045-432-0507

E-mail : ycgcl10@island.dti.ne.jp